## 現代修道会の目的

人生における神を見い出し、地域社会のために愛と尊敬を助長する。

異なる宗教間での理解を深め、聖地を訪れる巡礼者を援助し、キリストを聖地に留める。

貧者、病者、不当な罪を被り苦しんでいるものを援助し、抑圧に立ち向かい、言動の自由を守る。

騎士道の高貴な精神を奨励し、テンプル騎士団の記念物、古文書、歴史を保存する。

## 神聖なる擁護

修道会はアンチオキアと西地方、アレキサンドリア、エルサレムのギリシャ・メルキト・カトリック総大司教によって擁護されている。ギリシャ・メルキト・カトリック教会の慣習は東方正教会から受け継いでおり、ローマ・カトリック教会と親しく交流をしている。

総大司教がアラブのキリスト教信者が移民をせずに聖地エルサレムに留まるよう助長する活動をしているが、修道会はこれを支持することを目的としている。この活動には教育、住宅の供給、青年活動、保健活動が含まれる。保健センターは、キリスト教徒の住民だけでなく、イスラム教徒、ユダヤ教徒にも開かれている。

修道会は、どのキリスト教会へも入会の制限をしない。

修道会は、フリーメーソンとは関わりを持たない。

修道会は、政治と関わりを持たない。

修道会の会員は、国民の義務に背く行為をしてはいけない。

## 修道会への入会

修道会へは、18歳以上の男女が入会できる。騎士の従者、聖職志望者、騎士の交友、少年少女に対する規定がある。

入会希望者、聖職志望者は、真のキリスト教徒としての体面、徳、原動力と、修道会の目的を支持する意思がなければならない。

志望者は、ナイトまたはデイムに保証され、小修道院長と教会付牧師か儀式官のいずれかと面接を受ける。申込書と写真は公爵に送られ、許可が下りた後、白のクロークと赤の十字勲章と首飾りが授けられ、羊皮紙文書と証明書が与えられる。

## 教会

日本におけるテンプル騎士団最高教会：
Saint Alban's Anglican Church
〒105　東京都港区芝公園3-6-25

---

テンプル騎士団についてのさらに詳しい情報については下記へお問い合わせ下さい。

テンプル騎士団事務局
〒158　東京都世田谷区用賀3丁目15-8-302
電話/ファクス 03-3708-4549

MOTTO
NON NOBIS DOMINE NON NOBIS SED NOMINI
TUO DA GLORIAM

NOT UNTO US, O LORD, NOT UNTO US BUT
UNTO THY NAME GIVE GLORY

# THE SUPREME MILITARY ORDER
# OF THE TEMPLE OF JERUSALEM

## GRAND PRIORY OF JAPAN
## KNIGHTS TEMPLAR

## エルサレム寺院最高騎士修道会　略歴

1118年、ユーグ・ド・パイヤン、ジョフロワ・ド・サントメール、他７人のフランク人騎士が、全キリスト教会騎士修道会を設立し、巡礼者と聖地エルサレムを守ることに献身した。騎士たちは俗世を捨て修道士となり、「キリストの戦士」と呼ばれた。

エルサレム王ボードワン２世(1118-1131) によって修道会はエルサレム宮殿の中のソロモン寺院（テンプル）に置かれ、修道士はそこで寝起きし、そこが兵器庫ともなった。これがテンプル騎士団、神殿騎士と呼ばれるようになった由来である。

1128年にトロワで行われた公会議で法皇ホノリウス２世が修道会の公認を決議し、クレールヴォー大修道院長でありシトー修道会の設立者であった聖ベルナールにより、厳格な規律が与えられた。また、騎士は純潔の象徴として白い修道服をまとい、1146年にはエウゲニウス法皇が「赤の十字勲章」を与えた。

修道会が聖地を守り、受けた勲章は多大な数にのぼった。しかし、1187年にエルサレムが陥落し、騎士たちはアッコンの町に退いたが、1291年にアッコンの総長、ウィリアム・デ・ボジューが防御戦で命を落とすとアッコンの町は占領されてしまった。新総長と生き残った騎士たちはキプロス島へ退却してリマソルを本拠地とし、テンプル修道院の本部はパリに置いた。

テンプル修道院は何年にも渡り、キリスト教に献身し文明教化のための奉仕活動にに尽力したが、その結果、他の有力者のこの豊かで強力な修道会に対する嫉妬と欲を、ますます刺激することとなった。1307年にはフランス王フィリップは、修道会に恩義があったのだが、フランス中のテンプル騎士を捕え、修道会の財産と領土を強奪した。フィリップ王自身は修道会を審判することができなかったため、法皇クレメント５世に修道会に不利な裁決を下すよう強要した。修道会が悪行を行った証拠のないまま、1312年、法皇はついに抑圧に屈し、教書を発行し修道会の活動を禁止した。そのため修道会は元の地位にもどり、世俗的な騎士修道会となった。

フランスではテンプル騎士は虐待され、1314年にジャクース・ド・モレー総長はパリのノートルダム大聖堂近くで、杭につながれ焼身刑となった。イギリス王エドワード２世は修道会に対し初めは攻撃をしなかったが、ついに1314年、オール・ハローズ教会において修道会を裁判にかけた。聖ヨハネ騎士修道会がテンプル騎士修道会の土地と財産を管理するよう任命されたが、結局エドワードがこのロンドンの教会も含め、すべてを強奪してしまった。

23代目の総長だったモレーはこのようにして1314年に殉教したが、生前にその地位はジャンマルク・ラルメニウスに授けていた。ラルメニウスは総長となり、生き残った騎士をあちこちから集め、1324年にテンプル修道会伝導憲章を作った。この憲章は今日でも、現代の修道会における重要な文書のひとつとなっている。

1705年までの間、修道会総長は密かに、そして途切れることなく続いた。1705年３月、多くのフランス貴族がベルサイユに集まってテンプル代表者会議を開き、フィリップ・オーリーンズ大公が41代目の総長に選ばれた。フィリップはのちにフランスを統治することになり、統治者と総長の立場から、テンプル騎士団を世俗的な騎士修道会として公式に復活させ、合法化を図った。

1723年のオーリーンズ大公の没後、総長にはブルボン公爵が３代続いたが、その後、1776年に総長に任命されたコセ・ブリザーク大公は、1782年フランス革命で命を落とした。大公はこのようになることを見越し、修道会の古文書と伝道憲章をレイディクス・ド・シャヴィョンに委ねていた。修道会はフランス革命のを生き延び、19世紀初頭には繁栄し多くの高職者が修道会入会を希望した。

1818年から1841年にかけて修道会は大きく発展し、フランスに20以上の女子修道会、イギリス、ドイツ、ベルギー、スイスに小修道院が建てられた。スウェーデン、ブラジル、インド、ニューヨークに公使館もつくられた。

エミール・ヨセフ・イザーク・バンデンブルグ公爵はブリュッセルに住んでいたが、1940年にナチスドイツがフランスとベルギーを侵略した。公爵は修道会を守るため、その権力を、中立国であったポルトガルの貴族、ソウサ・フォンテス伯爵に引き渡した。ソウサ・フォンテス伯爵の死後は、その遺言のとおりその地位は息子であるフェルナンド伯爵に引き継がれ、現在に至っている。

現在では、修道会は西ヨーロッパ、フィンランド、ハンガリー、北アメリカ、オーストラリアの各地に小修道院がある。その規律、理想、信念はどこも同じである。テンプル騎士は世界各地で厚く歓迎され、叙任式や代表者会議に出席する。修道会の公用語はラテン語とフランス語だが、近年では、英語とドイツ語が広く使われている。

# ORDO SUPREMUS MILITARIS TEMPLI HIEROSOLYMITANI

MAGNUM MAGISTERIUM

REGISTRE MONDIAL DES TEMPLIERS N.°

Rua Gonçalo Cristóvão, 96 - 4.° D
4000 PORTO - Portugal

Reg. G. Prieuré ........................................ N.°

Reg. Bailliage ........................................ N.°

CURRICULUM VITAE DE:

PHOTO

Name ______________________________

Address ______________________________

______________________________________

Telephone No. ______________ Fax No. ____________________

Email Address ____________________________________

Date of Birth ______________ Place of Birth __________________

Nationality ______________ Religious Denomination ______________

Education ______________________________________

Marital Status ______________ Name of Spouse __________________

Learned, Historical, or Civic Socities

Fraternal Socities

Military Service

Decorations and Medals

List all Orders in which you hold membership and the rank held

Date:

Signature du Candidat

Signature du Proposant